

ＩＴ融合による価値創造に向けて ～ＩＴ融合人材育成へのCSAJの取組～

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
人材委員会
人材育成研究会・CCSF研究会

CSAJのプロフィール

- ◆ 1982年5月、パソコンソフトウェア関連会社22社で設立された団体で、初代会長は、現在のソフトバンクの孫社長。
- ◆ 1986年2月、通商産業省（現：経済産業省）に「社団法人 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会」として認可を受ける。
- ◆ 2006年7月、「社団法人 コンピュータソフトウェア協会」に名称変更
- ◆ 2012年4月、一般社団法人に移行



会長：和田 成史（わだ しげふみ）
株式会社オービックビジネスコンサルタント 代表取締役社長

CSAJのプロフィール（続き）

CSAJは、コンピュータソフトウェア製品に係わる企業が集まり、ソフトウェア産業の発展に係わる事業を通じて、我が国産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的としている一般社団法人です。

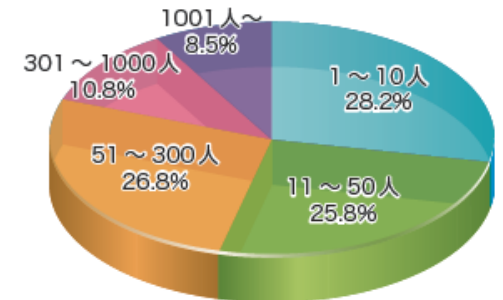


会員数

2013年5月17日現在

区分	社数
正会員	344
一般賛助会員	32
行政会員	2
試験会場会員	16
特別賛助会員	2
準会員	11
計	407

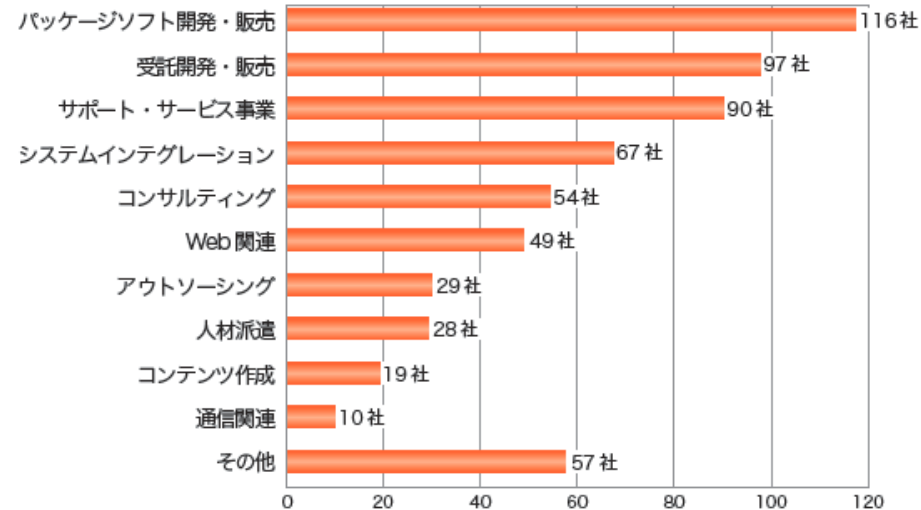
正会員の従業員数分類



平成24年度（2013年2月28日現在）
N=213 <複数回答>

正会員の業種・業態分類

平成24年度（2013年2月28日現在） N=197 <複数回答>



平成26年度CSAJ人材育成関連組織

人材委員会

委員長 山本 祥之(新任)

副委員長 宇野 和彦

副委員長 木田 徳彦

企業の発展を支える人財育成を設計するための情報交流の場をテーマに、引き続き業界が求める人物像やその育成方法について、各省庁、他団体から情報収集および意見交換を行う

人材育成研究会

主査 宇野和彦

CCSFワーキング

IT融合人材ワーキング

CCSFコミュニティー

中高年技術者ワーキング

CSAJにおける人材育成施策

CSAJの人材育成の
テーマとなっている人材像は
3つのレベルがある。



それぞれの対象人材像
を求める施策がある

ＩＴ融合人材
(次世代高度ＩＴ人材)

利活用ＩＴ人材
既存ＩＴ人材

将来のＩＴ人材
大学生・高校生

人材育成研究会

CSAJにおける人材育成施策

CSAJの人材育成の
テーマとなっている人材像は
3つのレベルがある。



それぞれの対象人材像
を求める施策がある

Ⅰ T融合人材
(次世代高度Ⅰ T人材)

Ⅰ T融合人材の人材像や定義、育成方法については「Ⅰ T融合人材育成連絡会」での検討が行われ、IT融合による価値創造に向けて～IT融合人材の育成と組織能力の向上～報告書が3月25日版が発表された。この報告書に記載されている人材像、人材育成手法はかなり専門的な内容が網羅されているので、この報告書をベースに人材育成研究会で勉強会を開催し、その中で「実践的学習の場」の構築の実証実験を2014年度の活動の中で推進する。

CSAJにおけるＩＴ融合人材育成施策

CSAJとしてもＩＴ融合人材像や育成手法に関しては、人材育成研究会のテーマとして、従来まで情報共有を図って来ています。今回の報告書が出た段階で、この報告書の内容を精査しながら、自分達の業界での融合ＩＴ人材育成の可能性について、今後勉強会を開催する予定です。特に、実践的学習の場については、机上の構想を実際の訓練の場として設定し、運営できるのかを検討したいと考えています。

今後の５つの取組の中でも、

取組案２ 個人能力評価のあり方検討

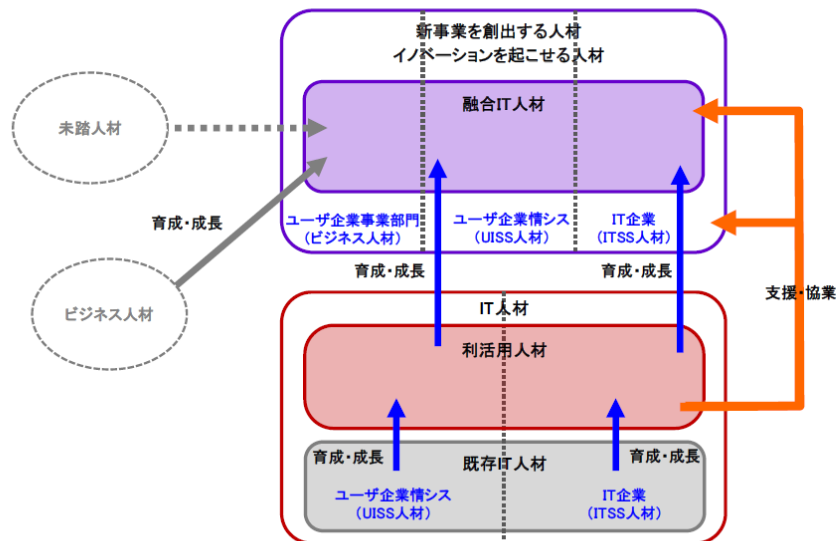
取組案３ イノベーションを起動する「実践的学習の場」の構築

を実証実験として、実施してみたいと考えている。

融合IT人材／利活用人材

IPA

「融合IT人材」「利活用人材」は既存のIT人材が成長していくキャリアパスの一つとして捉えることができます。IT人材のシフトを促すためには、これらの人材の枠組みと成長に向けた枠組みを示すことが重要です。



IT人材のシフトを促すためには、
(既存IT人材)→「利活用人材」→「融合IT人材」という成長の段階ごとに検証することが重要。

14

IT融合人材の育成は、まずは既存のIT人材から有望な人材として、十分にITを利活用しているIT人材を抽出し、彼らに支援や協業を行うことでIT融合人材へと育成・成長させるという手順になる。

CSAJとしては、イノベーション人材育成の手法を、米国のASTDの育成手法を参考にした育成体制の構築を、2014年7月を目途に提案する。

